

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、たくさんのご協力ありがとうございます。

子どもたちと一糸者に楽しいなあを積み重ねることも、保護者の皆さんと子どもを間にお話することがなかなか出来ない状況が続いていますが、その日が来ることを楽しみに、皆さんと一緒に乗りきりたいなあと思っています。予定していましたが1回クラス懇談会も残念ながら中止し、年間目標と1歳児の世界、大切にしたいことを、お便りでお伝えさせていただきます。

## ▷ 年間目標

- 自分でしたい意欲を育てる。
- 大人の援助のもとに基本的な生活習慣が身につくようにする。
- 全身運動を通して歩行の確立をめざす。
- 楽しい経験を通して、好きなあそびを見つけ友達を意欲させるようにする。
- 自分の思いを言葉にでもしっかりと出し、言葉で伝える。  
を目標に毎日を大切に積み重ねていきたいと思っています。

## ▷ 1歳児の世界、大切にしたいこと

一人ひとりの子どもが「ジブンテ」「ジブン」 「モウイッカイ」と自分の中の「自我」を拡大させていく時期です。自分の思い、つもりが魚羊日月になっていきます。

大人は子どもの思い、つもりをじっくり受け止めてあげたいですね。

手を洗くのは確かですが、意味がなさそうな「ムダに見える」子どもの目標や、全く交渉的でない判別も自分を太らせる っても大事な回り道だと思います。

### • 歩行の確立

歩けることも大切ですが、自分の体を自由に動かせる喜びを感じることが大切です。子どもの「おもろそう」「さわりたい」と思わず体が動き出すことを大切に、大人はそばで見守り、共感し、温かく受け止めてあげたいですね。

たのびのり(本を動かして、「デキタ!!」「モウイッカイ!!」と意欲につなげる生活を作っていきますよ。

### • だだね... 立ち直る自我

だだねは大人との信頼関係があるからこそ出てくるものです。笑ったり、泣いたり、怒ったりと自分の思いを安心して出せることはステキなことです。大人の働きかけによって自分の思いを主張できる主体(生か)が育っている証拠でもあります。

1才3ヶ月頃は「～するんだ」という自分の思いを主張して絶対にゆずらない「一だ」のだだこねですが、1才半過ぎには「～ではない一だ」というだだこねに変わっていきます。自分で自分の気持ちを立て直していくことが大切になります。子どもが自分の思いを表現することを大切に受け止めながら、子どもが自分で気持ちを整理し、自分でふんぎりをつけられるように周りの状況に目を向けさせたり、子どもが自分で選べるように選択肢を準備したり、大人の支えが重要になってきます。

日々の生活の中で自分の気持ちを立て直す力を育てるとは？ どのようなこと？

「いっぱい〇〇したね」「〇〇して楽しかったね」という満足感、「今やってたこと」をきちんと受け止めてあげることです。子どものつむひとつの行動をゆくり締めくくってあげて次へ向かわせてあげることです。子どもの中に次への見通しや切り替える力が育っていきます。

笑いが豊かになるように、色々な感情が芽生えるとともに恐れ、怒り、悲しみ、不安といったネガティブな感情も出てきます。「ちょっとしたこと(大人から見ると)で大泣きする」ような姿も見られるようになります。そんな時に「怖いねえ」「悲しいなあ」と言葉にして共感してもらうことで少し感情を整えることができます。体を寄せてもらいなあや「怖いけど、楽しかった」「悲しいけど、わかってもらえた」という経験をもとに立ち直る力が育っていきます。

じっくりゆっくり立ち直る自我を育ててあげたいですね。

### • 一糸者が楽しい

1歳児は友達に対する思いや憧れをいっぱい持っています。友達と一糸者だから楽しい世界がたくさんあります。また、自我が誕生する時には自分とは違う存在である友達が必要です。ときには、ぶつかり合ってケンカやトラブルも起ることもありますが、このぶつかり合いを通してより自分と相手を矢口していきます。みんなと一糸者に「ああ、楽しいなあ」と共感し合って遊ぶ経験をたくさんしたいなあと思います。

飛躍していく1年です。子どもの成長ってすごいなあと感動させられることも多いでしょう。しかし、子どもの姿に戸惑うことや悩むことも多くあると思います。そんな時には、大人同士も「ああかな?」「こうかな」と考え合いたいですね。子どもたちの色々なお話をしましょう。